

# 竹原管内景況調査

## 9月の景況DIは、製造業は好転、非製造業は悪化

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和元年9月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

### 調査概要

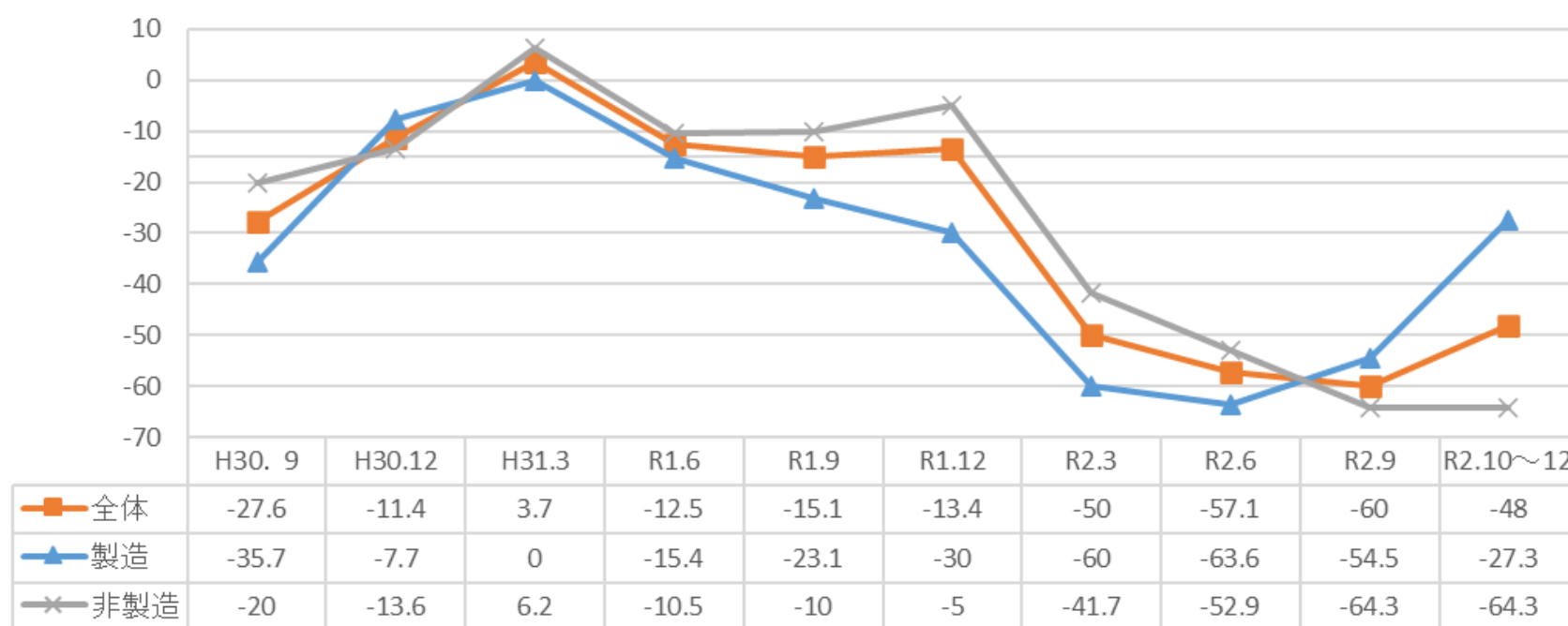
【調査時期】  
四半期毎に調査(年4回実施)  
【調査期間】  
令和2年9月  
【調査対象】  
当所会員

### 回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	17	11
建設	6	2
小売	13	5
サービス	17	7
合計	53	25

## ●全産業におけるDI値

景況DIの推移



9月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は9.1ポイント好転し、非製造業は11.4ポイント悪化しています。9月と比べて10月~12月までの見通しは、全体では、12.0ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

## ●景況が好転(悪化)した理由について

- ・コロナの影響により悪化。
- ・顧客の営業活動が低下し悪化した。
- ・平成30年の災害による復旧工事が多く発注され、好転している。
- ・コロナウィルスによる、お客様の来店が減少と購買意欲の低下。
- ・契約終了、予約のキャンセル等の発生したため悪化した。(宿泊業)
- ・宿泊・宴会・レストラン3部門共に悪化が顕著。主たる原因は年明けからの新型コロナウィルスの国内外の万円により、インバウンドの激減や移動自粛を含めたビジネス・観光客の減少等が理由。さらに、竹原においては電源開発の新高炉建設の完成の伴う工事関係者の長期宿泊がなくなったことが拍車をかけた。(宿泊業)
- ・新型コロナによって、サービス利用を控える傾向があるため悪化した。

## ●今年度下半期の業況について見通しをお聞かせください

- ・市場の回復が難しい状況。
- ・新規案件数は大きく減る見込み。
- ・少しずつ上昇の兆しが出てきている。
- ・一時内食需要の高まりは落ち着くとみて、家庭用販売は通常ベースで、業務関連商品は、引き続き厳しいとみている。
- ・下半期もコロナの影響が続くような気がする。
- ・Go To キャンペーンなどで若干動きがあるが、大きく回復にはつながっていない。(保険業)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)